

その他

資料等

第5回みえ県民意識調査 調査表（アンケート用紙）

1. 日ごろ感じている幸福感についておききします

問1-1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つだけ）

とても 不 幸											とても 幸 せ
0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点	

問1-2 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

1 家計の状況（所得・消費）	8 趣味、社会貢献などの生きがい
2 就業状況（仕事の有無・安定）	9 家族関係
3 健康状況	10 友人関係
4 自由な時間	11 職場の人間関係
5 充実した余暇	12 地域コミュニティとの関係
6 仕事の充実度	13 政治、行政
7 精神的なゆとり	

問1-3 あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。次の中からあなたのお考えにもっとも近いものに2つまで○をつけてください。（○は2つまで）

1 自分自身の努力	4 社会（地域住民、NPO等）の助け合い
2 家族との助け合い	5 職場からの支援
3 友人や仲間との助け合い	6 国や地方の政府からの支援

2. 地域や社会の状況について、あなたの実感をおききします

問2 次の（1）から（15）までの15の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	1 感じる	2 どちらかといえば感じる	3 どちらかといえば感じない	4 感じない	5 わからない
（1）災害の危機への備えが進んでいると感じますか。	1	2	3	4	5
（2）必要な医療サービスを利用できていると感じますか。	1	2	3	4	5
（3）必要な福祉サービスを利用できていると感じますか。	1	2	3	4	5
（4）犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。	1	2	3	4	5
（5）身近な自然や環境が守られていると感じますか。	1	2	3	4	5
（6）性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じますか。	1	2	3	4	5
（7）子どものためになる教育が行われていると感じますか。	1	2	3	4	5

	1 感じる	2 どちらかといえば感じる	3 どちらかといえば感じない	4 感じない	5 わからない
(8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っていると感じますか。	1	2	3	4	5
(9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じますか。	1	2	3	4	5
(10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。	1	2	3	4	5
(11) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。	1	2	3	4	5
(12) 県内の産業活動が活発であると感じますか。	1	2	3	4	5
(13) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。	1	2	3	4	5
(14) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。	1	2	3	4	5
(15) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。	1	2	3	4	5

現在、三重県では今後4年間の取組を示す「みえ県民力ビジョン・第二次行動計画（仮称）」を策定中ですが、次の問3から問10の施策は、県民の皆さんの実感や状況で成果を測る予定です。次の問3から問10の質問それぞれについて、ご回答ください。

問3 【人権が尊重される社会づくり】あなたは、県民一人ひとりの人権が尊重されている社会になっていると感じますか。あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1 感じる	4 感じない
2 どちらかといえば感じる	5 わからない
3 どちらかといえば感じない	

問4 【あらゆる分野における女性活躍の推進】あなたは、あらゆる分野で女性の社会参画が進んでいると感じますか。あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1 感じる	4 感じない
2 どちらかといえば感じる	5 わからない
3 どちらかといえば感じない	

問5 【多文化共生社会づくり】あなたは、外国人住民が地域社会の一員として共に暮らせる社会になっていると感じますか。あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1 感じる	4 感じない
2 どちらかといえば感じる	5 わからない
3 どちらかといえば感じない	

問6 【少子化対策を進めるための環境づくり】あなたは、地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1 感じる	4 感じない
2 どちらかといえば感じる	5 わからない
3 どちらかといえば感じない	

問7 【地域スポーツと障がい者スポーツの推進】あなたは、1週間にどのくらい運動やスポーツを実施していますか。（○は1つだけ）

※ 運動やスポーツの例：ラジオ体操、ストレッチ体操、腹筋・背筋など軽いトレーニング、ウォーキング、ランニング、水泳、ゴルフ、テニス、バレーボールなどのさまざまな運動やスポーツ（通勤方法に徒歩や自転車をいれるなど日常生活での工夫した運動も含む）

1 毎日	5 月に1~2回
2 週に5~6回	6 運動していない
3 週に3~4回	7 わからない
4 週に1~2回	

問8 【協創のネットワークづくり】あなたは、NPO活動・ボランティア活動・市民活動などの地域をより良くするための活動に参加されていますか。あなたの状況にもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1 している	4 していない
2 どちらかといえばしている	5 わからない
3 どちらかといえばしていない	

問9 【農林水産業のイノベーションを支える人材育成と新たな価値の創出】あなたは、魅力ある県産農林水産物や加工品が販売されていると感じますか。あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1 感じる	4 感じない
2 どちらかといえば感じる	5 わからない
3 どちらかといえば感じない	

問10 【広聴広報の充実】あなたは、得たいと思う県の情報が、得られていると感じますか。あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1 感じる	4 感じない
2 どちらかといえば感じる	5 わからない
3 どちらかといえば感じない	

3. ご家族に関することなどについておききします

問11 あなたはこれまでに結婚をしたことはありますか。（○は1つだけ）

- | | |
|--------------------------|--------|
| 1 未婚（結婚したことはない） | } 問12へ |
| 2 既婚・死別（結婚したことはあるが、死別した） | |
| 3 既婚・離別（結婚したことはあるが、離別した） | |
| 4 既婚・配偶者あり（現在、夫または妻がいる） | → 問13へ |

現在、夫または妻がいない方（問11で「1」～「3」を選んだ方）におききします。

問12 今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。（○は1つだけ）

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 いずれ結婚するつもり | 2 結婚するつもりはない |
|--------------|--------------|

すべての方におききします。

問13 日本では、「未婚」、「晩婚」が増えてきています。あなたは、未婚の人が結婚していない理由はどんなことだと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------|--------------------------------|
| 1 結婚する気がない | 7 異性とうまく付き合えない |
| 2 結婚は遅くていいと思っている | 8 自由な生活を失いたくない |
| 3 出会いがない | 9 仕事が不安定 |
| 4 理想の相手に出会えていない | 10 仕事（または家業）に打ちこみたい |
| 5 収入が少ない | 11 その他（ ） |
| 6 自分に自信が持てない | 12 わからない |

問14 あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。理想の子どもの人数をお答えください。（○は1つだけ。「1」に○をつけた方は（ ）に人数も記入してください。）

- | |
|------------------------------------|
| 1 () 人くらいほしい (ほしかった) |
| 2 ほしくない (ほしくなかった) |
| 3 わからない |

問15 お子さんは何人いらっしゃいますか。結婚や就職など既に独立しているか否か、同居しているか否かにかかわらず、記入してください。いない方は「0」とご記入ください。

人

お子さんがいらっしゃる方におききします。

問15-2 お子さんの年齢をご記入ください。なお、お子さんが5人以上いる場合は、年齢が上の4人についてお答えください。

また、現在在学中の学校に該当するものがあれば○をつけてください。

一番上の子 () 歳→保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、専門学校、短大・高専、大学・大学院
二番目の子 () 歳→保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、専門学校、短大・高専、大学・大学院
三番目の子 () 歳→保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、専門学校、短大・高専、大学・大学院
四番目の子 () 歳→保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、専門学校、短大・高専、大学・大学院

すべての方におききします。

問16 これまでの県の調査では、実際の子どもの数は理想の子どもの数より少なくなっています。あなたは、その理由はどんなことだと思いますか。次の中からあなたのお考えにもっとも近いものに2つまで○をつけてください。(○は2つまで)

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 子育てや教育にお金がかかり過ぎるから | 8 健康上の理由から |
| 2 家が狭いから | 9 ほしいけれどもできないから |
| 3 自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから | 10 夫の家事・育児への協力が得られないから |
| 4 子どもがのびのび育つ環境ではないから | 11 夫が望まないから |
| 5 自分や夫婦の生活を大切にしたいから | 12 末子が夫の定年退職までに成人してほしいから |
| 6 高齢で生むのはいやだから | 13 その他() |
| 7 これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから | |

問17 現在、あなたをふくめて、ご家族のうち、介護が必要な方はいますか。(○は1つだけ)

1 介護が必要な人がいる	2 介護が必要な人はいない
--------------	---------------

4. 「新しい豊かさ」を享受できる三重づくりについておききします

「みえ県民カビジョン・第二次行動計画（仮称）」では、「新しい豊かさ」を享受できる三重づくりを進め、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」の実現につなげていくこととしています。

「新しい豊かさ」を、『経済的な豊かさ』、『精神的な豊かさ』、社会保障制度の充実や人とのつながりの再生などの『社会のシステムやつながりの豊かさ』の3つの豊かさ全てを高めていくことで得られるものにとらえ、地域の持続的な活性化とともに、県民の皆さんが希望を持って、希望がかなうような社会づくりをめざしていきます。

次の問18から問24の「新しい豊かさ」に関する質問それぞれについて、ご回答ください。

問18 あなたは、将来どんな暮らしができる社会（三重県）が望ましいと思いますか。次の中からあなたのお考えにもっとも近いものに2つまで○をつけてください。（○は2つまで）

- 1 不安を感じることなく、安心して暮らすことができる。
- 2 自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる。
- 3 ライフステージに応じて多様な働き方ができる。
- 4 より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる。
- 5 家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる。
- 6 地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる。
- 7 さまざまな産業が発展する中で、いきいきと働くことができる。

問19 あなたの周りには、かなえない夢や希望にむけて挑戦できる環境が整っていると思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------|---------|
| 1 思う | 4 思わない |
| 2 どちらかといえば思う | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば思わない | |

問20 あなたは、自分の意欲や努力以外に、かなえない夢や希望にむけて挑戦できる環境として、何が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものに2つまで○をつけてください。（○は2つまで）

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1 家族の理解や協力 | 5 実現のための方法や機会などの情報 |
| 2 資金的な援助 | 6 その他（ ） |
| 3 教育（スキルや知識を身につける学びの場） | 7 わからない |
| 4 相談できる人 | |

問21 あなたは、安心感のある暮らしを送るために必要な「人とのつながり」とはどのようなものだと思いますか。次の中からあなたのお考えにもっとも近いものに2つまで○をつけてください。（○は2つまで）

- | |
|-----------------------------------|
| 1 職場におけるつながり |
| 2 学校におけるつながり（同窓会も含む） |
| 3 趣味のサークルなどにおけるつながり |
| 4 近所づきあい |
| 5 町内会・自治会などの地縁組織におけるつながり |
| 6 NPO・ボランティア団体等におけるつながり |
| 7 フェイスブック・ラインなどのソーシャルメディアにおけるつながり |
| 8 その他（ ） |
| 9 わからない |

問22 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

- | | |
|-----------------|---------|
| 1 住みやすい | 4 住みにくい |
| 2 どちらかといえば住みやすい | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば住みにくい | |

問23 あなたのお住まいの地域について、愛着を感じる要素として、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 自然環境に恵まれている | 10 家・土地がある |
| 2 治安や風紀が良く安心して暮らせる | 11 生まれたり育ったりした場所 |
| 3 働くところがある | 12 友人など人間関係がある |
| 4 通学、通勤、買い物など日常生活が便利 | 13 近所との人間関係がある |
| 5 独自の伝統・習慣など文化・歴史がある | 14 地域の人とのつきあいが豊かである |
| 6 まちなみがすぐれている | 15 地名のイメージがよい |
| 7 活気がある | 16 その他（ ） |
| 8 落ち着いた雰囲気 | 17 わからない |
| 9 家族・親族がいる | |

問24 県民の皆さんの安心な暮らしのために、また就労継続など個人の希望をかなえる観点から、仕事と介護が両立できる社会づくりが望まれますが、そのような社会づくりのために、あなたは、何が重要だと思えますか。次の中から、あてはまるものに2つまで○をつけてください。（○は2つまで）

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 1 | 介護施設の整備 |
| 2 | 介護サービスの充実（デイサービス、ショートステイ、ヘルパー利用等） |
| 3 | 施設入所や在宅介護のノウハウなどの情報 |
| 4 | 日々の不安・悩みなどを相談できる機関・窓口 |
| 5 | 資金的な援助（介護費用の助成） |
| 6 | 職場における介護休暇など制度の充実 |
| 7 | 職場の理解 |
| 8 | 地域の理解 |
| 9 | その他（ <input type="text"/> ） |
| 10 | わからない |

5. 「伊勢志摩サミット」についておききします

問25 あなたは、来年5月に開催される伊勢志摩サミットでどのようなことを期待していますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|----|-----------------------------|
| 1 | 伊勢志摩地域・三重県の知名度の向上 |
| 2 | 地域に対する愛着や誇りの高まり |
| 3 | 地域の一体感の醸成 |
| 4 | 国内外からの観光客の増加 |
| 5 | 伊勢志摩産品・三重県産品のPR、ブランド力の向上 |
| 6 | 道路、通信環境等の整備 |
| 7 | サミット関連のイベントの開催 |
| 8 | 関連産業への経済効果 |
| 9 | サミットにおける有意義な議論 |
| 10 | その他（ <input type="text"/> ） |
| 11 | わからない |

さいごに、ご自身の現在のことについておききします

三重県全体の分析のためには、回答者お一人おひとりについて、以下のような情報が欠かすことができません。無記名式であり、集計した結果のみを使用しますので個人の情報が特定されることは一切ございません。ぜひご協力ください。

問26 あなたの性別を次の中から選んでください。（○は1つだけ）

1 男性	2 女性
------	------

問27 あなたは現在、おいくつですか。

満 歳

問28 あなたの世帯構成はどれにあたりますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1	単身世帯（ひとり暮らしなど）
2	一世代世帯（夫婦のみなど）
3	二世帯世帯（親と子など）
4	三世帯世帯（親と子と孫など）
5	その他（ ）

問29 あなたの主な職業は何ですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

1	農林水産業（家族従事者も含みます）
2	自営業、自由業（家族従事者も含みます）
3	企業、役所、団体などの正規職員
4	パート、アルバイト、派遣社員など
5	その他、収入のある仕事
6	学生（アルバイト等をしている方も含みます）
7	専業主婦、専業主夫
8	無職

問30 あなたの世帯全体の年間収入（税込み）はどのくらいですか。（○は1つだけ）

1	100万円未満	6	500万円～600万円未満
2	100万円～200万円未満	7	600万円～800万円未満
3	200万円～300万円未満	8	800万円～1,000万円未満
4	300万円～400万円未満	9	1,000万円以上
5	400万円～500万円未満	10	わからない

問31 あなたのお住まいの地域はどちらですか。1～5の地域に○をつけてください。（○は1つだけ）

1	北勢地域	（ 桑名市・いなべ市・四日市市・鈴鹿市・亀山市 木曾岬町・東員町・菰野町・朝日町・川越町 ）
2	伊賀地域	（ 伊賀市・名張市 ）
3	中南勢地域	（ 津市・松阪市 多気町・明和町・大台町 ）
4	伊勢志摩地域	（ 伊勢市・鳥羽市・志摩市 玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町 ）
5	東紀州地域	（ 尾鷲市・熊野市 紀北町・御浜町・紀宝町 ）

このたびのアンケート調査に対するご感想、または三重県政に対するご意見などございましたら、ご自由にお書きください。今後の参考にさせていただきます。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
 このアンケート用紙を同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、郵便ポストに投函してください。
 ご回答いただいた内容については直ちに集計して分析し、県政を進めるための貴重な資料として活用させていただきます。
 報告書は3月頃に公表し、県庁舎の受付などに配置するとともに、県ホームページにも掲載する予定です。

<http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/>



回答者の属性構成と県全体の構成との比較

第5回みえ県民意識調査は、各市町の選挙人名簿を使用した等間隔無作為抽出法により、標本を抽出しており、標本数10,000人に対して、有効回答数は5,236人でした。そのため、各属性において、実際の県全体と回答者の構成が異なる部分もあることから、以下にその概略をまとめています。

属性	属性項目	県民意識調査 件数	県全体 件数	県民意識調査 構成比①(%)	県全体 構成比②(%)	比較 (①/②)	備 考 (県全体の資料出処、意識調査との差異)
地域	北勢地域	2,338	669,373	44.7	45.1	0.99	○資料出処 総務省住民基本台帳人口 (28年1月1日)(日本人住民)
	伊賀地域	510	141,518	9.7	9.5	1.02	
	中南勢地域	1,460	400,606	27.9	27.0	1.03	
	伊勢志摩地域	698	208,796	13.3	14.1	0.95	
	東紀州地域	230	63,560	4.4	4.3	1.03	
計		5,236	1,483,853	100	100		
性別	男性	2,140	716,423	40.9	48.3	0.85	○資料出処 総務省住民基本台帳人口 (28年1月1日)(日本人住民)
	女性	2,967	767,430	56.7	51.7	1.10	
	不明	129	0	2.5	0.0	-	
計		5,236	1,483,853	100	100		
年齢	20歳代	369	171,389	7.0	11.6	0.61	○資料出処 総務省住民基本台帳人口 (28年1月1日)(日本人住民)
	30歳代	629	207,694	12.0	14.0	0.86	
	40歳代	853	255,653	16.3	17.2	0.95	
	50歳代	879	223,924	16.8	15.1	1.11	
	60歳代	1,214	264,306	23.2	17.8	1.30	
	70歳以上	1,141	360,887	21.8	24.3	0.90	
	不明	151	0	2.9	0.0	-	
計		5,236	1,483,853	100	100		
主な職業	農林水産業	131	32,926	2.5	2.3	1.09	○資料出処 平成22年度国勢調査 ・「自営業、自由業」「正規職員」 「パート・バイト・派遣」は15歳以上対象 ・「専業主婦・主夫」は「家事」、「学生」 は「通学」、「無職」は「完全失業者」の数字
	自営業、自由業	461	80,870	8.8	5.6	1.57	
	正規職員	1,253	463,359	23.9	32.2	0.74	
	パート・バイト・派遣	1,009	245,223	19.3	17.0	1.13	
	専業主婦・主夫(家事)	246	254,687	4.7	17.7	0.27	
	学生(通学)	60	16,204	1.1	1.1	1.02	
	無職(完全失業者)	819	46,569	15.6	3.2	4.84	
	その他	1,108	248,373	21.2	17.2	1.23	
不明	149	52,112	2.8	3.6	0.79		
計		5,236	1,440,323	100	100		
配偶関係	未婚	702	290,472	13.4	19.4	0.69	○資料出処 平成22年度国勢調査
	有配偶	3,729	977,703	71.2	65.1	1.09	
	離別・死別	631	214,579	12.1	14.3	0.84	
	不明	174	18,146	3.3	1.2	2.75	
計		5,236	1,500,900	100	100		
世帯類型	単独世帯	426	189,123	8.1	10.8	0.75	○資料出処 平成22年度国勢調査 ・「三世帯世帯」には「三世帯以上世帯」を含む
	一世帯世帯	1,557	304,258	29.7	17.4	1.71	
	二世帯世帯	2,359	876,678	45.1	50.2	0.90	
	三世帯世帯	655	344,822	12.5	19.7	0.63	
	その他	98	29,797	1.9	1.7	1.10	
	不明	141	1,485	2.7	0.1	31.66	
計		5,236	1,746,163	100	100		
世帯の年間収入	100万円未満	252	31	15.0	3.5	4.25	○資料出処 平成26年全国消費実態調査 ・二人以上の世帯
	100～200万円未満	533					
	200～300万円未満	776	82	14.8	9.3	1.59	
	300～400万円未満	722	135	13.8	15.4	0.90	
	400～500万円未満	584	127	11.2	14.4	0.77	
	500～600万円未満	552	115	10.5	13.1	0.81	
	600～800万円未満	660	152	12.6	17.3	0.73	
	800～1,000万円未満	350	125	6.7	14.2	0.47	
	1,000万円以上	357	112	6.8	12.7	0.54	
	わからない	333	0	6.4	0.0	-	
	不明	117	0	2.2	0.0	-	
計		5,236	879	100	100		
有効回答数		5,236		100			

※比率が1.50以上若しくは0.50以下のセルが太枠囲いとし、斜字で表記

分析の手法等

1 平均値や回答比率の差についての統計的な有意性を確認するための手法

みえ県民意識調査は、一部の標本を抽出し、その結果から全体の値を推定する「標本調査」です。この調査では5,236の回答数（サンプル数）がありますが、調査結果と県全体の本当の姿との間にはどうしても誤差（＝標本誤差）が発生します。また、属性を組み合わせると、そのカテゴリのサンプル数はさらに少なくなることから、誤差はより一層拡大します。

このため、幸福感の平均値や地域や社会の状況についての実感の比率などに差があったとしても、結果として、そのことがそのまま県民全体に当てはまるとは言い切れない（統計的に有意ではない）ケースが考えられます。

そこで、幸福感の平均値や地域や社会の状況についての実感の比率などについて比較を行うにあたり、その差に統計的な有意性があるかどうか、ここでは、下記の検定方法により判定を行いました（※1、※2）。例えば、同じ調査を異なる調査対象で100回行った場合、95回以上の割合で同様の差が生じる場合は「統計的に有意な差がある」と表現し、90回以上の割合で同様の差が生じる場合は「統計的にある程度有意な差がある」と表現しています。

※1 幸福感の平均値の差の検定方法

$$U = \frac{\bar{X} - \bar{Y}}{\sqrt{\frac{S_1^2}{n} + \frac{S_2^2}{m}}}$$

\bar{X} : 標本Xの平均値 \bar{Y} : 標本Yの平均値
 S_1^2 : 標本Xの分散 S_2^2 : 標本Yの分散
 n : Xのサンプル数 m : Yのサンプル数

U > 1.64 の時、平均値の差は統計的に有意であると言える（危険率5%）

※2 比率の差の検定方法

$$U = \frac{P_1 - P_2}{\sqrt{\frac{P_1 \times (1 - P_1)}{n} + \frac{P_2 \times (1 - P_2)}{m}}}$$

P_1 : 標本Xの回答比率 P_2 : 標本Yの回答比率
 n : Xのサンプル数 m : Yのサンプル数

U > 1.64 の時、回答比率の差は統計的に有意であると言える（危険率5%）

上記※1及び※2の算出方法により

U > 2.33 の時、平均値や回答比率の差は統計的に非常に有意（危険率1%未満）

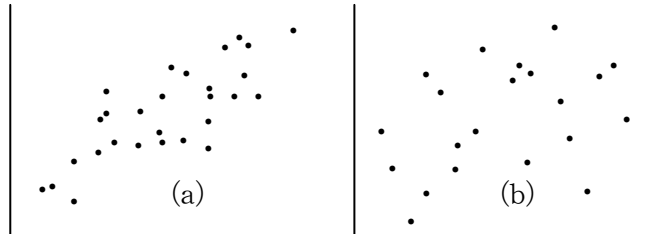
U > 1.28 の時、平均値や回答比率の差はある程度有意（危険率10%未満）

となります。

2 相関係数

相関係数は、二つの変数（いろいろな値をとるもの）の直線的な関係の強さを表す指標で、 -1 から $+1$ までの値をとります。一方の変数の値が大きいほど他方の変数の値も大きくなる傾向があるとき、「相関係数」は正となり、正の相関関係があると言います。相関係数が 1 （或いは -1 ）に近いほど、2つの変数の分布を描いた散布図上の点が、ある直線の周りに集中する、つまり、相関関係が強いということになります。

左の散布図 (a)、(b) は、どちらも、正の相関関係がある場合のイメージです。相関係数の値は、(a) $>$ (b) となります。



【相関関係と相関係数】

2つの変数 x 、 y の間で、一方が増加すると他方が増加または減少するような関係を相関または相関関係と言います。相関関係は、以下の3つの場合に分けることができます。

- ① 正の相関： x が増加（減少）すると y も増加（減少）する。
- ② 負の相関： x が増加（減少）すると y が減少（増加）する。
- ③ 無相関： x の増加・減少が、 y の増加・減少と直線的な対応をしない。

相関関係の強さを数値で表したものが相関係数で、必ず -1 から 1 の間の値をとります。

また、相関係数 r の値は、おおよそ次のように評価することができます。

- ① r が 1 に近いほど強い正の相関関係がある。
- ② r が -1 に近いほど強い負の相関関係がある。
- ③ r が 0 に近いほど相関関係は弱い。

（「よくわかる統計学 I 基礎編[第2版]（2011年、金子治平・上藤一郎編）」より）

【相関係数の読み方】

相関係数の読み方については、専門家のさまざまな考え方がありますが、この分析レポートでは、次のとおり区分しています。

相関係数の大きさ（絶対値）	相関の程度の表現
0.7 以上 1.0 以下	高い相関がある
0.5 以上 0.7 以下	かなり高い相関がある
0.4 以上 0.5 以下	中程度の相関がある
0.3 以上 0.4 以下	ある程度の相関がある
0.2 以上 0.3 以下	弱い相関がある
0.0 以上 0.2 以下	ほとんど相関がない

（出典）「社会調査の基礎」放送大学テキスト

顧問からのメッセージ

第5回みえ県民意識調査の分析を読むー成果の蓄積と新しい試み

鳥取大学地域学部教授 小野達也

みえ県民意識調査は今回で5回を数え、幸福を巡る県民の意識について様々な事柄が明らかになってきました。安定的に推移する構造的な側面もあれば顕著な変化を示した側面もあり、また県民の多くに共通する傾向がある一方で属性による明確な差が観察されるものもあります。今回も分析ワーキングの皆さんの熱心な作業に敬意を表します。分析レポートの後半において、現行の県政の課題や将来課題となりうる事柄に関する「分析の視点」を設定し、データの分析を踏まえて政策への示唆を述べている点は今回の特徴です。分析作業は、質問と属性の様々な組み合わせのクロス集計や、観察された変化と差の有意性検定など、今回も周到なものです。分析結果は何れも興味深いですが、過去の調査結果を含め、一読者としてあらためて注目した点をいくつか挙げてみましょう。

① 幸福感を大きく左右する要因

「幸福感を判断する際に重視した事項」の上位3つは第1回調査以降一貫して健康状況、家族関係、家計の状況で、これら3者と他の項目には明白な差があります。一方、幸福実感指標で幸福感との相関係数（関係の明確さに相当）が高いものは「結婚・妊娠・子育て」が1番で、「仕事・収入」と「地域への愛着と住み続けたい気持ち」が続き、次とは差があります（健康状態に関する幸福実感指標はありません）。

結婚や子育てについては、該当する層と該当しない層とで幸福感の平均点に少なからぬ差があり、仕事と収入（本人）の多寡も同様です。幸福実感指標で幸福感を説明する回帰係数（影響の大きさに相当）の第1位は「仕事・収入」でした（第1回調査）。幸福感を大きく左右する要因として健康、結婚・子育て、仕事・収入を挙げることができそうです。

一方、「地域への愛着と住み続けたい気持ち」は上の3者のように幸福感をもたらす原因とは考えにくく、また「住んでいる地域に愛着を感じる要素」が家族や仕事も含む複合的なものであること（今回の調査結果）からも、幸福感の小さくない一部に相当するとも考えられます。

② 高齢社会の到来に伴う変化

三重県でも進行する人口高齢化に関わる事柄として、目を引く2つの「低下」に今回のレポートも注目しています（第3章）。1つは職業別にみた幸福感が農林水産業において唯一有意に低下したことです。加齢に伴う経営縮小・収入減少など様々な要因が想定されるでしょう。該当の回答者数は前回168人、今回131人と少ないですが、前回調査からわずか10か月間の変化であり、着目に値すると思われま。

もう1つは、福祉に関する幸福実感が、前回と比べて15指標中で最も大きく低下したこと（実感層の減少と非実感層の増加）です。この幸福実感は回答者全体よりも、例えば介護が必要な人が家族にいる層（「介護必要層」と略します）などの方がより重要でしょう。数字をみると、前回と比べて実感層は7.5ポイント減少、非実感層は2.5ポイント増加しました。介護必要層の幸福感は回答者全体よりも有意に低いのですが、介護必要層のうちの福祉実感層（必要な福祉サービスを利用できてい

ると実感している人)の幸福感は回答者全体とほぼ同じであり、介護必要層のうちの福祉非実感層が回答者全体を大きく下回っています(第4章)。つまり、今回の結果は、増加する介護必要層の福祉に関する幸福実感が低下し、幸福感を押し下げている可能性を示唆しています。

③ その他の注目すべき「差」

第1回調査より、様々な意識についての傾向的な地域差が観察されてきましたが、今回のレポートでは、伊勢志摩地域・東紀州地域における地域への愛着を巡る特徴を取り上げています。また、女性の活躍に関して、「挑戦できる環境づくり」に必要な事項として「家族の理解や協力」を挙げた割合の男女差が、5事項のうちで唯一有意な程度に大きい(挑戦の環境が整っているとした人もそうでない人も)ことも示唆的です。

最後に、今回「新しい豊かさ」という観点から「将来望ましい社会」として「不安を感じることなく、安心して暮らすことができる」という選択肢が2位以下に大差をつけて最も多く選ばれました。不安・安心というキーワードは幸福感に大きく関わるものが考えられ、次回以降の調査においてさらに探ることが期待されます。

みえ県民意識調査分析ワーキングの開催実績等

1 みえ県民意識調査分析ワーキング（平成 28 年度）の開催実績

回	日時	ワーキングの主な内容	備考
第1回	4月27日（水）	・ワーキングの設置目的とゴールの確認 ・分析に関する仮説の設定方法	
第2回	5月18日（水）	・幸福感・幸福実感指標のクロス分析・有意性検定の進捗状況の確認 ・分析に関する仮説の設定	
第3回	6月1日（水）	・幸福感・幸福実感指標のクロス分析・有意性検定の進捗状況の確認 ・仮説の検証状況の確認	
第4回	7月4日（月）	・分析レポート中間案の検討	小野教授参加
第5回	7月15日（金）	・今後のスケジュール・役割分担の確認	
第6回	8月5日（金）	・分析レポート最終案の検討	小野教授参加
第7回	8月9日（火）	・分析レポート最終案の検討	

※ 上記以外に、小野教授には電子メールでの照会や鳥取大学研究室においてご助言をいただきました。

2 みえ県民意識調査分析ワーキング（平成 28 年度）の構成

（顧問）

鳥取大学 地域学部 教授 小野 達也

（メンバー）

戦略企画部 企画課 企画班 課長補佐兼班長 平井 靖士
 戦略企画部 企画課 企画班 主幹（班長代理） 野呂 親宏
 戦略企画部 企画課 企画班 主査 南 昌宏
 戦略企画部 企画課 企画班 主査 大迫 慎太郎
 戦略企画部 企画課 計画班 班長 越智 昇悟
 戦略企画部 企画課 計画班 主査 天春 孝映
 戦略企画部 企画課 計画班 主査 杉原 仁
 戦略企画部 統計課 分析・情報班 主査 水谷 典通
 戦略企画部 統計課 分析・情報班 主事 齋藤 理沙子

（事務局）

戦略企画部 企画課

みえ県民意識調査分析レポート（平成28年度）
- 県民の幸福実感向上のために -

平成 28（2016）年 9 月
三重県戦略企画部 みえ県民意識調査分析ワーキング
（事務局）三重県 戦略企画部 企画課

〒514-8570 津市広明町13番地
T e l : 059-224-2025
F a x : 059-224-2069

E-mail : kikakuk@pref.mie.jp
URL : <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/>
